

事業評価外部有識者委員会（2026年3月）概要

1. 日時

2026年3月2日（月）15時00分～17時00分

2. 場所

独立行政法人国際協力機構（JICA）本部会議室

3. 出席者

（有識者委員）山形委員長、源委員長代理、今田委員、川崎委員、木内委員、功能委員、近藤委員、寺田委員

（JICA）八原理事、評価部長他

4. 議事概要

（1）2025年度事業評価年次報告書、（2）2024年度・2025年度の委員会活動の振り返りを議題とした。今次委員会での助言等を踏まえ、2025年度事業評価年次報告書を最終化し、また次回以降の委員会の運営準備を進めることとなった。議事結果は以下のとおり。

（1）2025年度事業評価年次報告書の構成

JICAでは事業評価に関する取り組みや評価結果をわかりやすく公表するため、事業評価年次報告書（以下「評価年報」）を作成・公表している。今次委員会では、例年掲載している外部事後評価および内部事後評価の結果概要に加え、新興ドナーとの評価知見の共有、エビデンスの利活用、テーマ別評価等の取組についても報告する構成としている旨、JICAから説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

（委員からの意見）

- ・ 評価年報が、評価制度の概要説明や個別案件の評価結果を体系的に整理した資料として一定の完成度を有している。他方で当該年度においてJICAとして特に重視した評価上の論点や、評価を通じて何を明らかにしたいのかといったメッセージを、より明確に伝えた方がよい。
- ・ 評価年報は説明責任を果たすための重要な公表資料である一方、今後は評価を通じた学びや制度改善、経営判断への活用といった観点も意識し、評価結果から得られた示唆や教訓を、より前面に押し出した構成とすることも考えてはどうか。評価年報の位置づけや想定読者を改めて整理したうえで、メッセージ性を強化する工夫を期待したい。
- ・ 総合評価レーティングが低い案件については、とりわけ国民や関係者の関心が高まることから、評価結果に至った経緯や制約要因、そこから得られる教訓を丁寧に説明することが重要。評価の概要をまとめた評価年報においてもこうした情報の充実した記載を図るべき。また、読み手にとっての分かりやすさという観点から、総合評価レーティングの高低によらず、事業概要やサブレーティング等の情報は記載雛型の統一を検討した方がよい。
- ・ エビデンス利活用に関して、ラオスの医療施設における壁画事業が患者・医療従事者に与える影響

を混合研究方法によって試行的に評価したことは興味深い。定量・定性分析を組み合わせた混合研究方法自体は評価では一般的ではあるが、定量データのみでは把握が難しい裨益者の内面的変化に関する質的データも活用し、介入が効果をもたらすメカニズムについて一定の仮説を立てて定量・定性双方の評価を通じて仮説を検証した方法が有意義である。

- ・ 一方、定量調査の結果やその解釈が評価年報上では十分に記載されておらず分かりにくいいため、記載の改善を求めたい。また、今回の試行的評価の実施を踏まえ、今後、どのような事業に混合研究方法を用いた評価を実施するのか、考え方の整理を期待したい。
- ・ 事業が人々の主観的な幸福にどのような影響をもたらしたかを捉えるウェルビーイング面の評価について、着実に評価事例の蓄積が進んでいる点を歓迎したい。今後に向けては、評価事例の積み重ねにとどまらず、評価を通じて得られた知見を整理・類型化し、ウェルビーイングの指標開発などを行い、ウェルビーイングの改善に資する事業の計画策定に活かす取り組みを期待したい。
- ・ タイの第三国研修に関する合同評価について、タイ側のカウンターパートとの協働による評価を通じた知見共有の効果もあった点は興味深い。一方で、評価年報上においては、評価の実施過程で生じた実務上の難しさや調整、試行錯誤の内容が十分に記載されていないため反映してほしい。特に、評価視点の調整（ファインチューニング）の方法、第三国研修特有の制約の中で評価判断がなされたのかといった点は、今後同様の評価に取り組むうえで重要な知見となる。

（２）2024 年度・2025 年度の委員会活動の振り返り

現委員の任期（2 年間）を総括するため過去 2 年間の委員会活動の成果と今後に残る課題を整理することを目的として、山形委員長より 2 年間の委員会活動の結果について以下のような説明を行った。

- ・ 過去 2 年間で 4 回の委員会を開催し、JICA 評価部提案による以下の件について議論・助言を行った。
 - 1) 2024 年度事業評価報告書案、2025 年度事業評価報告書案
 - 2) クラスターマネジメントにおけるモニタリング 評価制度の検討
 - 3) 内部事後評価制度（技術協力プロジェクト案件）の変更
- ・ 過去 2 年間 4 回の委員会で挙げられた主な課題は以下の通り。
 - 1) 年次評価報告書を通じたステークホルダーへのアウトリーチ
 - 2) Well-being の視点に立った評価の推進
 - 3) 評価手法についての検討

これに対する委員からの主な意見は以下のとおり。

（委員からの意見）

- ・ 評価年報について、評価制度や個別事業の評価結果を網羅的に示している一方で、内容が無機的に見えて「今年度の見どころ」や「JICA の事業評価として何をどう主張したいのか」が読者に伝わりにくく、エグゼクティブ・サマリーや年次の重点テーマを明示するとともに、統合報告書や JICA Magazine（広報誌）等の分かりやすい媒体と役割分担を整理する必要がある。また、事前・事後の比較が可能な写真の活用など、読者に直感的に分かりやすく伝わる見せ方を検討すべきとの意見が

出された。

- ・ 事業評価の手法に関して今後 JICA に期待したい点は、ウェルビーイング面の評価の推進、他ドナーの評価手法との比較などを通じたより良い評価手法の検討などである。

(3) 委員長まとめ

議題（1）について、委員からの助言と提案を評価年報の改善に活かしてほしい。また、議題（2）について、委員から提示された論点を整理した上で次期委員会に引き継ぎたい。

以 上